



市議会2月臨時会が16日に開会され、一般会計補正予算案等が上程・可決されました。

一般会計補正予算(第9回)
【地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業】

○(仮称)スポーツコミュニティセンター整備事業、小中学校校舎等耐震改修事業など19件 4億971万円

【緊急雇用創出事業】
○介護雇用プログラム事業 326万円

補正後の一般会計予算額 404億4490万円

周桑病院に 指定管理者制度が導入されます

全市を挙げて経営改革を進めていきました西条市立周桑病院は、平成22年4月1日から、市と周桑病院の医師によって設立された「医療法人専心会」を指定管理者として管理運営を行うことになりました。なお、診療科目、受診料、救急医療についての変更はありません。

新たに医師3名を確保

4月から公設民営で新たなスタートを切る周桑病院に、小児科医、整形外科医、研修医の3名が常勤

医として赴任します。

今後とも地域医療を守るため、市では医療法人専心会との連携を密にして、さらなる医師確保等に向けて努力を続けてまいります。

■問合せ

西条市役所地域医療課

TEL 0897-56-5151(代表)



開催 報告

木のまち・木のいえ リレーフォーラム in 西条

木材利用の促進と普及を目的に、全国を巡る「木のまち・木のいえリレーフォーラム」の四国の会場に西条市が選ばれ、2月20日に総合文化会館で開催されました。

当日で開催のフォーラムは、四国4県の木材資源情報の集中と発信をメインテーマに行われ、四国内外の木材生産者・消費者・学生など約800人が参加しました。

当日行われた、基調講演・パネルディスカッションの概要をお知らせします。

■基調講演の概要

○京都大学 今村祐嗣教授

木材を腐れや虫害などの劣化から防ぎ、長期間使用することは、木材中に固定された炭素の放出を防ぐということで、地球温暖化防止の有力な一つの方策である。

一方、使用材料や建築工法の多様化、住み方の変化に伴い、木造住宅の劣化を促進する要因も存在するため、住まいの劣化防止と長期間使用に向けての戦略を考えていかなければいけない。

○東京大学大学院 安藤直人教授

日本の森林は熟成期を迎え、十分に使うことができる状況にあるが、この40年間植林がされていないため、次の世代を賄う若い木が無くなっている。森林は「循環型資源」であり、それを次

の世代に引き継ぐためには、成熟した森林を切り、植樹を行い、森林を循環させなければいけない時期になっている。

地域材の供給拡大のため、生産地である四国としては、四国の情報を集約し、地域材の魅力大都市の消費地などあらゆる方面に情報発信していかねばならない。

■パネルディスカッションの概要

四国4県の木材生産者・取扱業者・消費者など10名が登壇し、それぞれの立場から環境問題や業界のPR不足、間違った認識の解消に向けた取り組み、木材消費に向けた情報発信の必要性などについて、活発に議論されました。

